



# 【特集】市民の皆さんに愛され70年目、刈谷の盆踊りといえばこの2曲 刈谷音頭 刈谷小唄

例年、8月になると市内各地で行われる盆踊り。流れる音楽は年によってさまざまですが、刈谷音頭と刈谷小唄は長年変わらず愛され続けてきました。2019年に行われた刈谷市民盆おどり大会では複数の地区により刈谷音頭、刈谷小唄が使用されました。刈谷の盆踊りの顔、刈谷音頭と刈谷小唄を市民の皆さんに紹介します。**問** 広報広聴課 (☎ 62-1001)



## 特徴的な歌詞

刈谷音頭には「海の向こうにヤフォードにシボレー お国自慢にヤトヨダがござる」というハイカラな歌詞が、刈谷小唄には「雁とナー 雁と八の字ほどよくあわせ 刈谷とみせてこゝろいき」というしゃれた歌詞があり、長い間愛されています。歌詞はそれぞれ、美空ひばりさんの「東京キッド」などで有名な藤浦洗「ちいさい秋みつけた」などで有名なサトウハチローです。

## 古閑裕而 作曲

この2曲の作曲を手掛けたのは、現在NHKで連続テレビ小説として放映中の「エール」の主人公のモデルとなった古閑裕而。また、振り付けは西川流に依頼をして作られました。作詞者の2人も含め、とても豪華な面々によりこの2曲は手掛けられていたのです。

## レコード販売

昭和25年の市制施行1周年記念事業として、名古屋の放送局を通じて1年がかりで作られたこの2曲は、レコードとして



昭和40年の盆踊りの様子



刈谷ハイウェイオアシス内のオアシス館には、刈谷小唄の歌詞が掲示されています。



2曲が収録されたレコード(右は再販売されたドーナツ盤)

市内の楽器店や市役所で販売されました。販売当初は1枚270円と、当時としては高価であったにもかかわらず、多くの市民の皆さんが購入してくれました。

## 踊り継がれる

「この2曲はテンポがよく、覚えやすい振りで誰しもが楽しめます」と話してくれたのは、刈谷市民踊愛好会会長である近藤さき子さん。子どものころから現在まで毎年このように盆踊りで踊っているそうで、この2曲との関係はとて長く深いものがあります。

刈谷市民踊愛好会の皆さんが講師として行う町内の練習会でもこの2曲は使用されています。「基本は見えて覚えてもらい、時には振りをゆっくりにし、言葉を添えて教えています」と講習会の様子を教えてくださいました。

しかし、昔に比べると盆踊りの頻度も減り、規模も小さくなってしまったようです。「昔はもつと大規模でした。盆踊り大会と一緒にカーニバルを呼んだこともあり、櫓もかなり大きかったです。学校、神社、お寺でも盆

踊りを行っていましたし、大名行列で刈谷音頭と刈谷小唄を流し、踊り歩いたこともありました」と近藤さんは記憶をたどります。また、「民踊愛好会の会員数も少なくなってきたので、もし興味のある人がいたら会員になってほしい。そして、一緒に刈谷音頭と刈谷小唄を広めていきたいです」とかつての盛り上がり復活への思いも話してくれました。

この2曲のいいところはという質問に「比較的簡単で子どもでも踊りやすいところ」と答えた近藤さん。近藤さんが子どもの時は大人を見てまねていたら自然と踊れるようになったのだとか。その後は自分の子どもと、そして今ではお孫さんと一緒に踊ることもあるそうです。「これが子どもたちとのコミュニケーションツールにもなります。その子どもたちが、また次の世代に刈谷音頭と刈谷小唄を伝えてほしいです」と笑顔で話してくれました。

## 歌詞の紹介

### 刈谷音頭

- 一、アアアアア 兄貴や名古屋で弟は刈谷 ふたり揃って働き者よ 今年や世がよって田畑もよって 刈谷音頭の調子も揃た ヨイヨイヨイトサで はちまきしめた
- 二、主が作った紡織機械 私がつむぐ、あの糸の綾 結ぶ縁で好かれて好いて 人もつらやむ刈谷のすまい
- 三、海の向こうにヤフォードにシボレー お国自慢にヤトヨダがござる 主とドライブ肩組み合つて 東京八十里大阪四十里 船頭うれしや夕暮時にや 船がひとり刈谷へ行くよ 河は逢妻やさしい流れ 一夜泊りのおぼろの月夜
- 四、朝にナー 朝にタベに工場のけむり うれし刈谷の空がすホホホイ わたしやひねもすむねががす 何をナー 何を語るかお城の跡で 人目を忍んで草のかけホホホイ 二匹のとんぼが寄り添うて
- 五、刈谷ナー 刈谷名物万燈祭り さまよふれ万燈をホホホイ わたしをふるのはおことわり

### 刈谷小唄

- 一、雁とナー 雁と八の字ほどよくあわせ 刈谷とみせてこゝろいきホホホイ 芸のこまかさシャレのよさホホホイ ホホホイ ホホホイのホイ
- 二、恋のナー 恋の上げ汐ごままでのぼる 刈谷むすめにたすねよかホホホイ 逢妻川とはなやましや
- 三、朝にナー 朝にタベに工場のけむり うれし刈谷の空がすホホホイ わたしやひねもすむねががす 何をナー 何を語るかお城の跡で 人目を忍んで草のかけホホホイ 二匹のとんぼが寄り添うて
- 四、刈谷ナー 刈谷名物万燈祭り さまよふれ万燈をホホホイ わたしをふるのはおことわり

